



生態系とビジネス

ビジネス界の反応と活動

World Business Council for Sustainable Development



World Business Council for
Sustainable Development



プレゼンテーションの概要

1. WBCSDの概要
2. 持続可能な生態系マネジメントについてのビジネス事例
3. WBCSDの生態系フォーカエリアの活動
 - 企業のための生態系サービス評価(ESR)
 - 生態系評価イニシアチブ(EVI)
 - CBD 第10回締約国会議に向けた計画

WBCSD日本メンバー企業

 SUMITOMO RUBBER INDUSTRIES, LTD.

TOYOTA

Kikkoman


CHUBU
Electric Power

 THE
KANSAI
ELECTRIC POWER CO., INC.

Hitachi Chemical

BRIDGESTONE

AGC

HONDA

SEIKO

MITSUBISHI
CHEMICAL

Canon


TAIHEIYO CEMENT


TEPCO


NIPPON PAPER
GROUP

NISSAN

 SOMPO JAPAN

 Mitsubishi Corporation

 **NTT**

SUMITOMO CHEMICAL

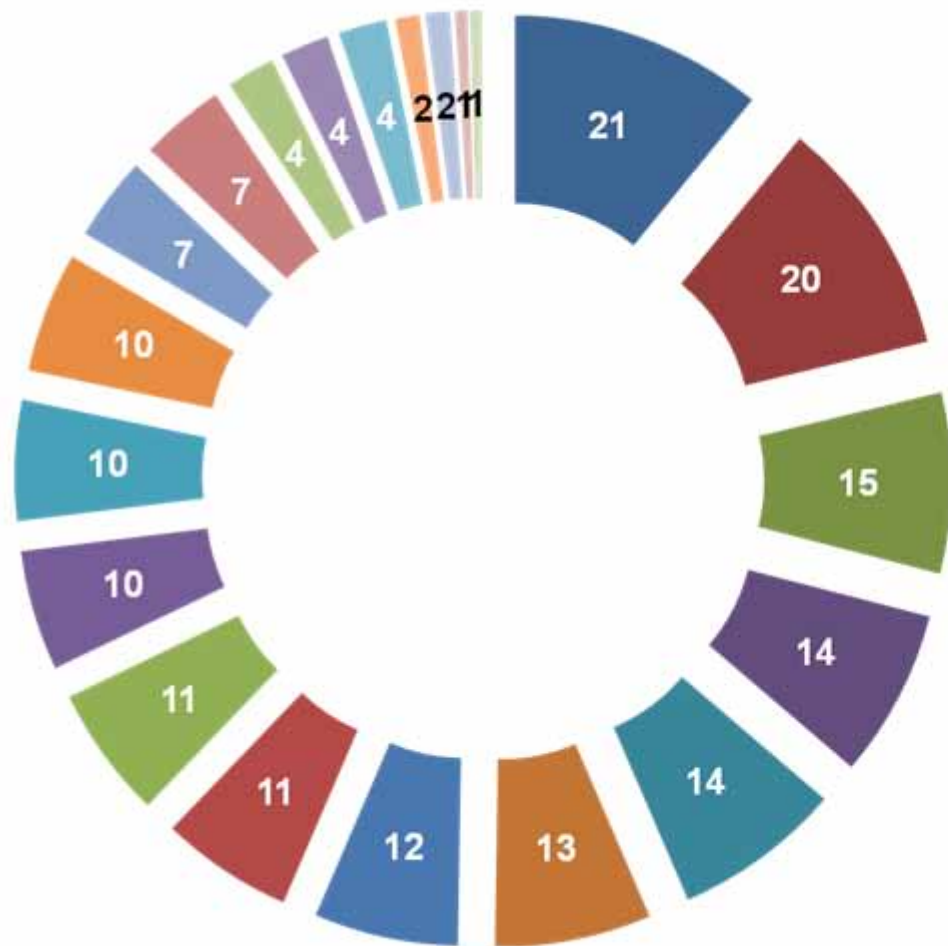
 **YOKOHAMA**

Design Your Energy 夢ある明日を
 **OSAKA GAS**
GROUP

 **TOYO TIRES**
World Business Council for
Sustainable Development

SONY

業種別メンバーシップ



電力	21
石油、ガス	20
化学	15
林業、製紙業	14
消費財	14
鉱業、金属	13
セメント	12
IT、通信	11
タイヤ	11
自動車	10
サービス	10
エンジニアリング	10
銀行、保険	7
建設	7
食品、飲料	4
医療、保健	4
海上運送	4
小売業	2
ロジスティクス	2
マスコミ	1
航空	1

地域ネットワーク - 60 のパートナー

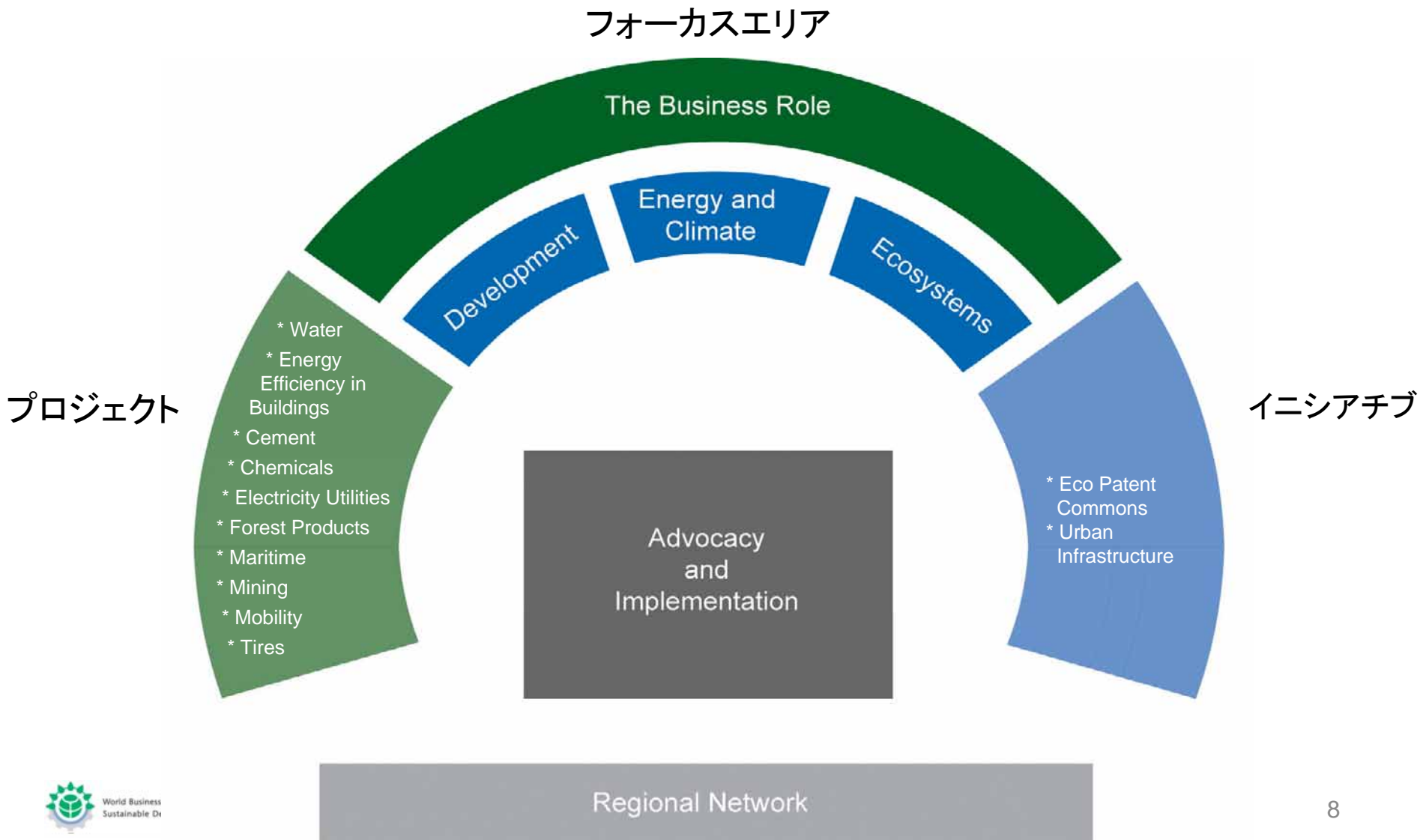




使命と目標

- 持続可能な発展に向けたビジネス界のプラットフォーム
- 持続可能な発展の問題がますます具体化してくる世界において事業を行い、革新を起こし、成長するための企業操業の資格(license to operate)を支援する
 - － ビジネス・リーダーシップ - ビジネス事例の作成と、ビジネス界の意見を発信
 - － 政策の立案 - ビジネス界の貢献を最大化する枠組みとなる政策立案および支援
 - － ベストプラクティス - 実行と共有
 - － グローバル・アウトリーチ - 開発途上国および市場経済移行諸国への貢献

WBCSD作業プログラム





なぜWBCSDで「生態系」に取り組むのか？

- **生態系の均衡**は、持続可能な開発の3本柱の1つである。
- すべてのビジネスは、核となる事業の一部として、またはバリューチェーン全体を通して、生態系および生態系サービスに**依存し**、これに**影響を与えている**。
- 生態系の劣化は、企業、企業のサプライヤー、顧客、投資家に対して重大な**リスク**をもたらし、事業を行う権利を弱体化しかねない。
- 持続可能な生態系管理および生態系サービスの利用は、新たなビジネスの**チャンス**と**市場**を生み出し得る。

生態系サービスに関する具体的な調査結果 – 60%が劣化している

供給サービス

食料	穀物	↑
	家畜	↑
	捕獲漁業	↓
	養殖漁業	↑
	野生の食物	↓
繊維	木材	+/-
	綿、絹	+/-
	薪	↓
遺伝子資源		↓
生化学物質、医薬品		↓
水	淡水	↓

調節サービス

大気の質の調節	↓
気候の調節 – 地球規模	↑
気候の調節 – 広域のおよび地域的	↓
水の調節	+/-
土壌浸食の調節	↓
水の浄化と廃棄物の処理	↓
疾病の予防	+/-
病虫害と雑草の抑制	↓
花粉媒介	↓
自然災害からの防護	↓

文化的サービス

霊的、宗教的価値	↓
審美的価値	↓
レクリエーションの場とエコツーリズム	+/-

↑ 地球規模で向上
↓ 地球規模で劣化

ビジネスにとっての意味とは？

ビジネスは、生態系および生態系サービス
に影響を与えている



生態系の変化は、ビジネスの
リスクとチャンスを生み出す



ビジネスは、生態系および
生態系サービスを頼り、これに依存している



産業界の行動に向けた具体事例は 強力で、以下の事項に基づいている

- 企業の操業は、生態系サービスから得られるもの、例えば水、繊維、食物、洪水の抑制などの質と量の変化に影響を受けやすい
- 企業操業の資格(business license to operate)は、GHG排出量、持続可能な水管理など、新しく、より厳格な環境方針および法律によって、危うくなる
- 企業の評判、ブランド、イメージは、例えばボイコット、キャンペーンなど、自然保護についての世論およびNGOの活動の影響を受けやすい
- 企業は、外部資金や新規市場を探索する際、生物多様性および生態系の影響評価を必要とする
- 企業は、例えば森林認証紙や環境効率の良い技術など、持続可能な製品およびサービスの新規市場を成長させることができる機会を有している



WBCSD「生態系」重点分野

目標

- 生態系劣化の加速および生態系サービスの損失と関連する、産業界のリスクとチャンスについて、メンバーの積極的な管理を支援する

対象範囲

- 生態系への影響、依存ならびにメンバー企業および産業界全体の資産の評価、測定および尊重
- 緩和のスケールアップ、相殺、あるいは持続可能な使用に関する解決策を発見することによる、生態系への産業界の影響の削減
- 生態系の持続可能な管理および管理責任、市場の創出および生態系サービスに対する支払についての新たなビジネスチャンスの模索と促進
- 柔軟で革新的な市場志向のアプローチを含む、生態系のガバナンスおよびポリシーフレームワークの提唱
- 主要なメンバー企業による、生態系が被る影響への対処および各社の生態系に関する資産の取り纏めを図る上での、各社の行動の促進

WBCSD「生態系」フォーカスエリア

ワークストリーム

1. 企業のための生態系サービス評価(ESR)ガイド

- 生態系サービスに対する企業の影響および依存度を評価し、管理者が生態系の変化に起因するビジネスリスクおよびチャンス进行管理するための戦略を積極的に立案するのに役立つ、意思決定支援ツール

2. 生態系評価イニシアチブ(EVI)

- 企業の生態系評価を促進する様なビジネス事例を支援
- EVIは企業の生態系評価のガイドとなり、生態系の劣化と生態系サービスが提供する利益を、情報提供および企業の意思決定の向上を目的として、各社がどのように明示できるかという方法について説明する
- ビジネス界向けのTEEB報告書(D3)の編集の中核となるチームメンバーとして、現在、章の編集に関わっている

3. 生物多様性条約(CBD)

- CBDへの産業界の関与を深めるための締約国会議の決議への対応
- 解決策の提供者としての産業界および市場の力の役割に関するアドボカシー活動
- 2010年10月、名古屋でのCBD第10回締約国会議における「国際ビジネス&生態系デー(International Business and Ecosystems Day)の主催



生態系の劣化に関して産業界ができること

1. 積極的にリスクに対処しチャンスを探る
 - 企業のための生態系サービス評価(ESR)は、ツールの1つ
2. リスクとチャンスを定量化するための生態系評価を実施する
3. 測定と評価に基づいた管理と緩和
4. 次の事項の開発においてリードする
 - 生態系サービスの市場
 - 環境効率に関する物、サービスおよび技術
5. 劣化を覆し、すべてのものに対して「公平な活動領域を作る」
 (“levels the playing field”)

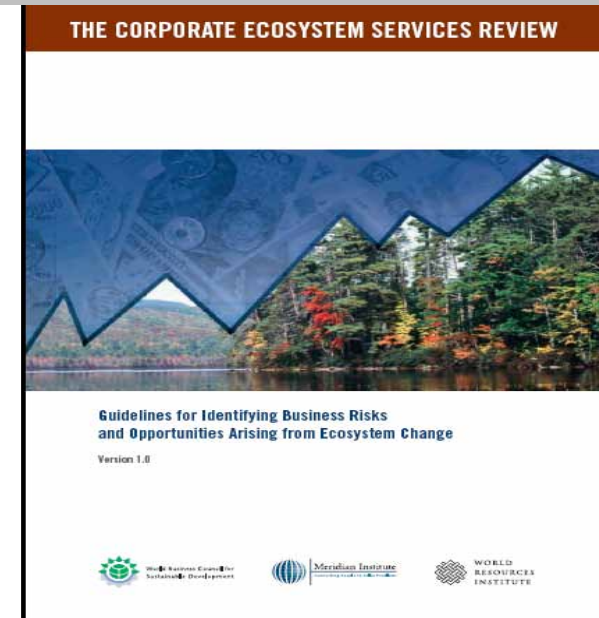
賢明な生態系の調整機能を支持する

(Support smart ecosystem regulation)

企業のための生態系サービス評価 (ESR)ガイドライン

**自社の生態系への依存と影響による
ビジネスリスクとチャンス进行管理する
ための戦略を、積極的に立案すること
を支援する、体系的な方法論**

- WRI、メリディアン・インスティテュート、および実地検証を行った5社と共同開発
- 2008年3月にモントルーにて発表、現在までに50社以上が利用（日立化成工業など）
- 現在、スペイン語版、ポルトガル語版、（日立化成工業の尽力による）日本語版が利用可能
- 12月までに中国語版、フランス語版が完成予定



ESRのステップ

ステップ

範囲の選択

優先すべき生態系サービスの特定

優先すべき生態系サービスの傾向の分析

ビジネスリスクとチャンスの特定

戦略の立案

主要な活動

ESRの対象範囲を決める

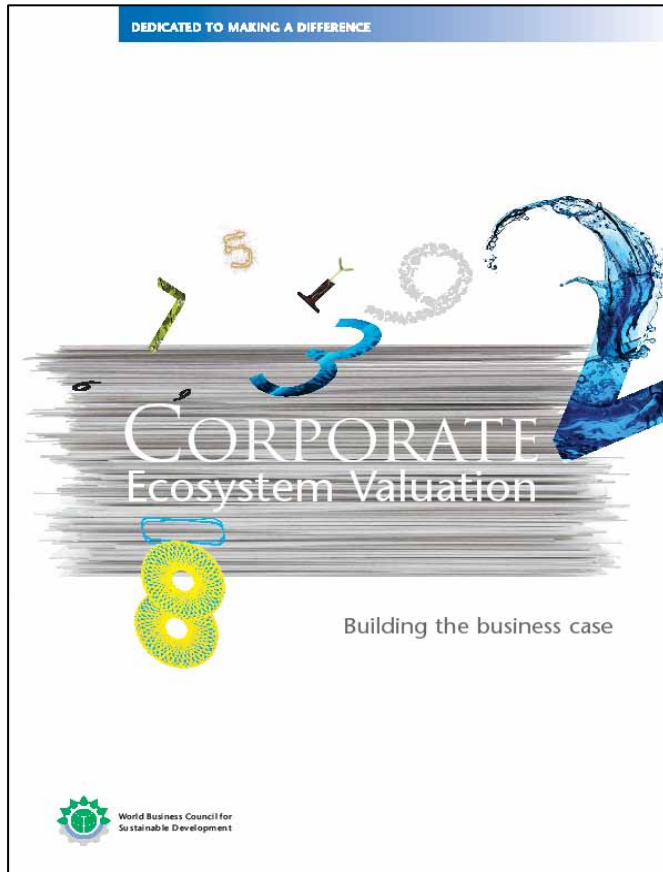
20以上の生態系サービスへの企業の依存度と影響度を体系的に評価する

優先すべき生態系サービスの状況や傾向、およびそのような傾向の要因を調査し評価する

優先すべき生態系サービスの傾向から生じ得るビジネスリスクやチャンスを特定し評価する

リスクを最小に、チャンスを最大にするための戦略の概略を作成する

生態系評価イニシアチブ (EVI)



目的:

企業が、生態系のリスクの管理、生態系の機会の獲得、および生態系の完全な価値や生態系サービスの損失に関連するコストを説明するにあたって、支援を行うこと

We only manage what we measure.
我々は評価したものしか管理できない



EVIの展開と、その次のステップ

■ 以下を対象としたアドボカシー文書の作成

(企業の生態系評価に関するビジネス・ケースの構築)

- 生態系への理解が初期段階にある企業
- 政策立案者および保全機関
(いわゆる、主流と言われる生態系評価の手法 (“*mainstream ecosystem valuation*”) を導入している関係者と実践者)
- TEEBイニシアチブ


■ 企業の生態系評価ガイドを作成し、15～20社が実地テストを実施

- 「企業の生態系評価(EVI)」の手法とは、生態系の劣化と生態系サービスからもたらされる利益の両方について、企業への情報提供および企業の意思決定の改善を促すことを目的とし、生態系を評価する方法の企業による活用を促す

企業の生態系評価 – ビジネス界にとっての利点

■ 企業の生態系評価(EVI)の導入は、企業にとって以下の事項について役立つ

1. 企業の意思決定の改善
2. 新たな収益の流れの獲得と価格付け
3. 経費削減
4. 節税
5. 収益の持続
6. 資産の再評価
7. 新製品およびサービスの調査
8. 負債および補償の対価の評価
9. 企業価値および株価の評価
10. 実績の報告



CBD 第10回締約国会議 (2010年名古屋)に向けた計画

- CBDおよびカンファレンス・オブ・パーティーズの会合に対する継続的なビジネス界の意見の提唱
- 以下に関するアドボカシー活動の推進
 1. ビジネス界による実質的な行動の促進
 2. ビジネス・ソリューションの提案
 3. 政府による「スマート」な政策枠組と、そのメカニズム
- 正式なプログラムの一環として「国際ビジネス & 生態系デー(International Business and Ecosystems Day)」を組織するためのIUCNおよび日本経団連との共同の取り組み

「国際ビジネス & 生態系デー」の提案

■ 国際ビジネス & 生態系デー(International Business and Ecosystems Day)の具体的な目的は以下の通り

- これまでに決定された締約国会議の事項に呼応すべく、CBDにおけるビジネス界の関与を拡大し、CBDの中核的な目的の支援におけるビジネス界の役割を強化する
- 閣僚および政府代表団に対して、これまでに生態系への影響への対処で成功を収めているビジネス界のアクションについての情報を提供すること
- 市場の力、および解決策の提供者としてのビジネス界の能力を効果的に活用する生態系管理の政策枠組を含め、戦略のスケールアップについて協議すること



ありがとうございました。



World Business Council for Sustainable Development